

## 論評：日本人原爆被爆者の寿命調査における不明線量<sup>§</sup>

### Invited Commentary: Missing Doses in the Life Span Study of Japanese Atomic Bomb Survivors

小笹 晃太郎 Eric J Grant Harry M Cullings Roy E Shore

#### 要約

寿命調査は、広島・長崎の原爆被爆者に関する長期追跡疫学コホート調査である。本誌今号に掲載の論文(*Am J Epidemiol.* 2013;177(6):562–568)においてRichardsonらは、追跡の初期に死亡した人は線量推定不明になりやすく、そのために放射線リスク推定においてバイアスを引き起こしていると指摘している。我々は、ほぼすべてのコホート構成者について追跡開始以前に遮蔽情報を入力しており、Richardsonらの主張するバイアスの多くが、信頼できる線量推定が不可能であった遮蔽状況の地理的分布を単に反映しているだけであることを示す。

---

<sup>§</sup>本報告書は *Am J Epidemiol* 2013 (March); 177(6):569–73 (doi: 10.1093/aje/kws474) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト(英文)である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト(英文)によるべきである。